

建築構造力学演習

○戸田善統^{A)}，濱崎ありさ^{A)}，友田祐一^{B)}

A) 環境構造グループ

B) 技術部企画・運営室

1 はじめに

本演習は，建築学科 1 年次後期に開講され，建築構造力学第一で学習した内容や，建築構造力学第二で学習する内容の実験と演習を行い，実験や演習を通して，実体験として構造力学を習得することを目的とする．

指導教員（工学部建築学科）：岡部猛教授

2 内容

以下に技術職員が支援した実験内容を記述する．

- ①長方形断面金属製はり模型の実験：はり部材の表面ひずみ度測定およびヤング率計算
- ②アクリルのH形断面はり模型の曲げ実験：断面ひずみ度測定および曲げひずみ度の理論計算
- ③アクリルのT形断面はり模型の曲げ実験：断面ひずみ度測定および曲げひずみ度の理論計算
- ④3 ヒンジ骨組（静定骨組）の実験：断面ひずみ度の測定および曲げモーメントの理論計算

3 まとめ

本演習では，各種模型実験にて，ノギスやマイクロメータを用いた断面寸法測定，ひずみゲージを用いた断面ひずみ度の測定など，受講生は，実体験として構造力学を習得することが出来る．また，模型実験終了後，直ちに実験レポートを作成し，内容を確認するため，受講生の理解度は高いと考えられる．